2009.8　　M.E/ENE　　こだま第６号（１面）

こだまネット　一周年記念特集・マイスター各位の感想

信州大学・自然環境診断マイスター　　発行：こだまフォーラム

こだまネットも早一周年となりました。今回は、その記念特集号として、マイスター各位からの感想文を掲載させていただきました。自然環境に負けず劣らず多様なマイスターの姿が見えます。佐藤先生・東城先生にもご多忙の中一筆お願いすることができました。ありがとうございました。（なお、マイスターの掲載順は、一部紙面構成の都合以外は着信順とさせて頂きました。）

マイスター養成とマイスター修了生（しんリンク）への想い

～多様な人生誌に学んだ離業への目覚め～　　佐藤利幸先生

「自然環境診断マイスター養成」、これは文部科学省により社会人学びなおしプログラムの一つとして、2007年度～2009年度の3年間に準備されたものです。自然災害防止・生物多様性保全・地球温暖化抑制などへの、具体的な企画を立案できる速戦力となる人物を育て上げるプログラムです。もとより、「マイスター：巨匠」まして「自然環境診断」という巨大で多様な課題への提言できる人材を、短期間かつ限られたカリキュラム（120時間）で促成するプログラムなど不可能と思える内容です。予算は5000～5500万円でした。

環境省幹部の方からの一言が印象的です。「私どもが20年以上かけて診断に悩み続けているのに、文部科学省が気軽にそんな養成講座をつくってもいいのだろうか・・」と。確かに至言です。この無謀とも言える養成講座、まして何の社会的保証もない「自然環境診断マイスター」認定書へのステップでした。ただひとつ、環境教育を柱とする信州大学学長自らの認定・授与がユニークで、自然環境を７つの多角的視点（６つの基礎実習と自分の専門（人生誌）から診断する基礎を集中受講できる無二のプログラムなのです。憧れつつも修了には多大な努力（レポートと発表）が不可欠です。それゆえに修了生は輝きます。

専門家は大学・研究所にはどこにでもいます。少なくとも博士号を取得された人物ならば専門家と認定されます。専門家はエキスパートとして社会から意見や診断を求められて、その専門的立場から意見します。ちょうど所属会社や自営業の相談役と同じです。

この養成プログラムは、専門家と社員としての個人が、別の専門基礎を学び、愛する自然環境を保全すべく、草の根運動をめざす集中合宿とも言えましょう。この3年間、事業責任者の役得として、多様な科目と実習を見せて頂きました。そして毎回の学長さんの感銘深い「お話」を聴かせて戴き、多忙でしたが「個人的な学び直し」を体験できました。多様（24～30講演）な特別講義・特別演習を担当してくださった先生方の内容も充実していました。さらに感銘を受けたのは、マイスター受講生の人生・専門性・意欲の多様性でした。お互いの多様性を受け入れつつ協働作業を行う手際よさでした。これら「魅力ある行動力」を支える秘訣は自然環境診断マイスターの歩んだ多様な「人生誌」であることを痛感できました。「人生誌」と「自然環境への愛」から「無私の活動」ができる人材が集ったようです。つい個人的にも影響をうけて放棄農地に理業の郷（自然力を活用）を創り始めました。離業（離れわざ）と利業につながることを夢みています。明日（８月８・９日）開田高原で非公式な「修了生・しんリンクの集い」があります。修了生（しんリンク）の活動以外での気楽な集いは初めてです。さらに深い「人生誌」を聴かせていただけそうです。また８月２２日は最終マイスター４コースの発表会です。なお、原則として大学院生向けに若干名募集するマイスター養成（５コース以降）がほぼ内定したようです。自然環境特別演習の講師とマイスター修了生が期待されています。

事業責任者　　佐藤利幸（信州大学理学部・山岳総合科学研究所）

東城先生、メールでのお願いが届かず、時間のない中、ありがとうございました。

マイスター一周年

東城　幸治先生

皆さんのマイスター修了式から一年が経つとのことです。このような場合、「早いもので」といった枕が付くことが多いのかも知れませんが、こと皆さんに対しては「まだ一年しか経っていないの？」という気がしています。皆さんのこの一年間が濃密であった証かと思います。

この間、各マイスターが個人で活躍される様子も伺えましたし、数名が協力しての観察会もいくつか立ち上がりました。

マイスターのプログラムを受講される以前から様々な活動を展開されてこられた方も多いので、個人レベルでもより一層活躍されることと思いますが、ハードスケジュールだった講義や実習、そしてレポートを一緒に乗り切ってこられた皆さんが力を合わせて取り組まれる行事もこれまで同様に企画いただけると嬉しい限りです。既に、皆さんの企画に参加し、色々と学ばせていただいておりますが、経験も浅く、専門バカでしかない私にとっては、皆さんが結集した際の、それぞれに様々な立場ゆえの多様なモノの見方や多様な経験や感性から成る、とてつもない大きなパワーと魅力を感じております（沈着冷静な重鎮から、場を和ます芸人さんまで…笑いの絶えない皆さんです）。普段、ほぼ同じ年齢層で似たような経歴のもとに入学してくる学生さんと向き合っていますので、なおさらそのように感じてしまうのかも知れません。学生さんの多くは、授業のレポートなどにおいても、似たような出典を参照しがちで（尤も最近はインターネットのサイトからの情報ばかりですが）、似通った内容となり、終いにはコピー＆ペーストされたりもしますので、皆さんの実に多様なレポートを読ませていただくことは楽しい作業でした。「多様性指数」算出が私の担当実習のレポート課題でしたが、マイスターの皆さんを対象に、皆さんの多様性をはかったとしたら、相当に高い値がでそうですね。

日頃の研究で、私が注目しているのは「生物がいかにして多様性を創出してきたか？」であり、生物の系統・進化や新たなニッチ獲得などのもとに「分化することで拡がり築かれてきた多様な世界」の謎解きですが、マイスター講座に関わってからは、対照的に、元々多様な方々が「集って築く多様な世界」も楽しませてもらっています。

ただし、生物多様性創出に関する近年の見解では、系統的に大きくかけ離れた生物同士が共生関係を築いたことで、爆発的な多様性が生じたとされていますので、そう考えると、皆さんの「集って築く多様な世界」が大きなエネルギーをもっていることも理に適ったことに思われます。

（マイスター感想文は、着信順を基本に掲載しました。）

マイスターこの１年

大洞盛胤

● マイスター１年目の感想

やれる所まで全力を尽くしてやつてみよう、自分の人生だ。家族と他人様に迷惑掛けないように前向きに。マイスターの仲間の相互援助が心の支えとなっている、もう一面、競争心が湧くこともある。

● マイスターとなって気づいたこと

５年前から始まった腎蔵不全の治療透析（週３回）も病院を変えて、新しい医療技術、各種の定期検査、正確無比なダイアライザー機器、日常の食事と水緻密な管理と中級負荷の日常運動（毎朝の散歩、週３回以上のテニス）により、この１年で、かなり体力が回復した。これも、思う存分マイスター活動をやりたいとの願望が働いたのかも知れない。

しんリンクの竹重　聡会長、どこかで見覚えのある方と思っていたが、１年ちかくになってやつと思い出した。私と同じポジション、３年前の長野市自然環境保全推進委員委嘱式の新任紹介での会議資料に記録されていた。竹重さんの実家が市内青木島という「二重生活」に惑わされていた。県自然保護レンジャーの委嘱式でも顔を逢わした。精力的な方だ。

● 取り組んでいる活動

長野市自然環境保全推進委員　湧水調査測定　８９ヶ所　「長野市の自然」年末に発刊（長野市環境部発行）に２５ヶ所の湧水記事が紹介される。２年前、合併した戸隠、鬼無里、大岡、豊野地区の４９ヶ所の湧水ポイントを、住民からの聞き取り、古い文書、地形を頼りに、自力で探し当てた。

県自然保護レンジャー委嘱を受けたばかりで戸隠方面で初体験したばかり。

身近な水環境、全国一斉調査　一級河川　浅川　１１ヶ所　水温、CODなど。

せせらぎサイエンス指導者研修会に参加した。今年の夏休み、孫達との自由研究に取り組む。

● 課題と今後の抱負

水棲生物を通して、長野市の多くの湖沼、河川の水環境を調査したい。薬品、パックテスト類は高価でそうそう購入できない。顕微鏡は、初期投資だけなので、高価だつたが購入した。信州淡水研究所落合照雄先生（80歳）と知己になり、著書も２冊頂いた。もう少しの準備を重ねて、長野市内の数十とある湖沼、小河川にアプローチしたい。

信大工学部　天野教授、藤井教授らとのバイオマスエチルアルコールの本格的な実証製造試験、国の研究費補助を待っている。私が、企業側の産学提携の窓口になっている。

● 近況

今でも市内の化学工場へ、技術顧問として週１日、出社。主として会社は油糧バイオマス廃棄物から、高品質の植物性脂肪酸とその誘導体を製造販売。この脂肪酸蒸留精製装置は、世界的なハイレベルの高品質の最新鋭装置で、基本設計は長年の私の汗の結晶だ。（2009.7.14）

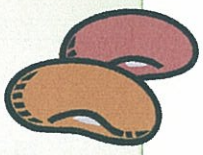
この一年

小岩井まゆみ

一粒は大地に
一粒は　とりに
一粒はひとに

最近　大豆をまきました

稲の葉の中で
秋への準備が
始まりました



２００９桐始結花

（2009.7.27）

この一年

安曇野市　20世紀少年　橋住真一

2 期生のネットワークは、良い、と思います。そして、それは私が始めた「助け合いネットワークの名簿」という、1 枚の紙を回覧したことが起点だと思っています。電子メールを全員へ送信という方法で行ったことにより、より深く知り合うことができました。世の中には、いろんな人がいるもんで、だから人生は面白いのでしょうね。

実は私は、『グリンピース・ジャパン』という自然環境保護団体の会員です。『グリンピース』というとクジラ保護で捕鯨船に体当たりしたとか、核廃棄物運搬船を追跡したとか、なんか過激な自然保護団体というイメージがあるかもしれませんが、それは昔の話で、今は実はそうではありませんのでよろしくお願いします。全世界的に自然保護活動をしている団体です。

中学生から天文少年だったせいか、時間の単位は1光年とかです。小坂先生は地質学だから単位が100万年って講演してましたね。私はその頃から思考回路がおかしいかもしれません。地球というガイア（仮説）が病気になると健康を取り戻すために、時々熱を出したり（地球温暖化）冷えたり（スノーボール化）して、生態系をリセットしているように思えてなりません。霧ケ峰の森林化、湿原の乾燥化。どれも大地からすれば自然なこと。人間を含めて生物の移動は当たり前。みんな元をたどれば外来種です。とか、そんなふうに考えるのって、過激ですか？

まあ、今生きている生物が人類だけでなくみんな幸せに暮らすという世の中を、維持していきましょう。（なんか宗教っぽくないかな。うそっぽいな。）（2009.7.14）

マイスターとしての歩み

藤森 聡美

昨年のマイスター養成講座を受講中から、これから自分には何ができるのか、を考え続けてきた。志を同じくする人をふやす、情報の受発信をする、といったことを事あるごとにおこなっていけたなら、自然環境にとって有効ではなかろうかと。

手始めに、マイスター養成講座の受講を数十人に勧めてみたところ、そのうちのおひとりは受講を決心され、現在マイスター認定目前である。

情報の受発信も、使命のひとつとしておこなってきた。「受信」ということでは、「森林セラピー」「森林医学」関連をご紹介いただいたことで、この分野に取り組むこととなった。また「県自然保護レンジャー」についてもお知らせいただき、その任についた。こういったMLを通しての皆様からの様々な情報のお陰で、その方向の窓が開くこととなり、大変有難いことであった。「発信」ということでは、先日、レンジャーの腕章をつけて霧ヶ峰八島ヶ原湿原を巡回した際に、途中、こちらとすれちがう場面で、ハッ！とされた方がおられた。もしかしたら、植物を採取された方、または、採取しようとしていた方であろうか、と推測したが、姿を目にしただけで、その人にとっての何らかの抑止力になれたとすれば、本望である。腕章をつけた人物としての自分が、環境保護への啓発メッセージを発信できているのだとすれば、『ハチドリのひとしずく』のような営みではあっても、回数を重ねていく意義はあると思っている。その他にも、環境関連のTV番組や新聞記事の紹介もおこなってきたが、今後とも折にふれ、こういう発信を数多く続けていきたい。

先生方をはじめ、マイスターご関係の皆様は、自然環境に対する共通理念をお持ちであるので、時に連携をしつつ、一方でそれと並行して、個人の営みも継続していけたら、と願っている。

マイスターご関係の皆様のご発展、ひいては自然環境が望ましい方向にむかうことを祈念し、「こだまネット」投稿の筆をおくこととする。（2009.7.25）

マイスター生活一年を迎えて

宮下哲則

「自然保護」「自然との共存」という言葉は、あまりにも曖昧でとても便利な言葉でないだろうか。この一年、マイスターの活動の中で自分の中に明確に捉えることが出来たと考える。一体何を持って「自然保護」というのであろうか。マイスター以前に抱いていた疑問である。自然保護とか、環境保護と言えばすべてが許される、そんな風潮を感じている。自然保護に対して我々は今何を目指すべきなのかと問い掛けた時にその本質は一体何であろうか。答えが見いだせないまま、器の装飾だけで自然を語るから、相容れない意見のまま対立し混乱を招いている。目指すものは同じではないのか。違う立場の意見を聞く事も拒む人がいる。マイスターは現実も教えてくれた。

持論として人間といえども一つの生物種であり自然の生態系の中に組み込まれた一要素に過ぎない。であれば生存していく上では、その生存競争の中で結果的に自然を破壊すること、自らの種としての命脈を絶つばかりでなく我々の生存に何ら関係のないような生き物の未来まで奪い去ることも自然の成り行きではないか。それがかつてない速度で行われようが壊滅的に行われようが、地球が「人間」という種を生み出したことも考えてみれば自然の摂理ではないか。自然を守るのは人間の責務だなどと奢り昂りあたかもすべての生き物の頂点に君臨しているかの振る舞いは「自然保護」に名を借りた暴挙に過ぎない。自然保護を問うならば人為を全く加えないことで、究極には人間の存在を消し去ることではないか。食物網の中で唯一人間は消費者としてのみ存在する特異な生物となってしまった。我々はもはや生態系の一員ではなくなっていることを自覚しなければならない。おそらく今の生態系の中で人類が欠落しても何ら影響はない。マイスターは、この持論を主張できるだけの力を与えてくれた。(2009.7.26)

信州大学・自然環境診断マイスター

山本　賢二

信大・自然環境診断マイスター取得後の一年間の歩みとして、自分では微々たる活動ではありますが、自然豊かな安曇野市の三角島を紹介したいと思います。以前、皆さんで自然環境診断しましょうと持ちかけた場所です。昨年、マイスター橋住さん、西川さんと訪れました。ここには、よく釣りに早朝あるいは夕方訪れます。もちろん大物も釣れます。目にやさしい緑色の樹木と空、そして川の流れだけです。まさにこの一帯は黒澤　明監督の「夢」の映画のロケ地なのです。北アルプスに降った雨水が扇状地の砂礫層をへて末端のこの一帯で湧出しており、信州大学の東城先生が研究で蓼川の水位や水温をデータロガーで記録しているように、温度や水量、水質の変化が少ないきれいで豊富な湧水の湧き出る蓼川と万水川の合流部に三角島は位置します。湧水地の河畔林、湿地帯に生息する動植物が多く、田畑や宅地開発により森林が失われた現在、この周辺は安曇野の湧水の自然を残す唯一の場所といえます。そして下流の木戸橋まで河畔林の回廊として機能しているまさに貴重な場所なのです。

三角島は個人の土地ですが、実は河川洪水の後背地や万水川の流路の変更により生まれたのでしょう、流路の固定の工事があちこちで行なわれた形跡があります。島の中はヤナギやニセアカシア・オニグルミ・エノキなど高木、マユミなどの低木などの河畔林と、スゲなどやヨシの湿地が点在しています。水辺のまわりではサギ類の鳥類が多数生息しています。樹上に営巣し、夕方になるとコロニーでの鳴声が大きく、柳類の樹形と相まって民家に近い場所とは感じられない自然です。また周りの水路ではよくカワセミを見かけ、翡翠色の羽が非常に美しく、遊水池や川に目をやると夏場はオニヤンマやアオハダトンボ、イトトンボなど多様な生物が生息している場所です。三角島は、安曇野市民の有志で保全活動を始めたばかりですが、まず自然観察会とアレチウリの除去から始めています。今後の三角島の自然環境の推移を見つめていたいと思います。(2009.7.29)

マイスターとなって

三浦方也

６年前、子供の頃に自然と戯れた郷里が懐かしく、爽やかな風と美味しい水に憧れて郷里の伊那谷にＵターンしました。この豊かな自然と環境を次世代に責任を持って引き継がねばならないと思い、県の自然環境保全関連活動（・地球温暖化防止活動推進員・環境保全推進員・希少野生動植物保護監視員）に参加しています。

以前は、自然環境について興味はあっても環境保全については全く無知でしたが、昨年マイスター研修で自然環境を学び、９月にマイスターの認定を頂いてから、自然・環境について少しでも実態や本質を見極めようと努めるようになりました。最近は少し自信を持って、充実した活動を展開できるようになり成果を挙げつつあります。

昨年末には、環境問題をテーマとしてグローバルに活躍されている月尾嘉男先生を塾長に迎え、自然塾「仰山塾 in 天龍」を立ち上げました。地元で自然や環境問題に地域づくりに活躍されている皆様と「仰山塾」で一緒に学び、日頃の活動を展開して、持続可能な循環型の地域づくりを目指しています。

マイスター研修で私が学んだ一番大事なことは“地球の自然は、土石も、生物も、水も、気候も全て繋がっている…だから人はこの自然との繋がりを大切にしなければならない”　という事でした。自然についていろいろな繋がりを勉強しています。自然と同じように、人と人の“つながり”も大切な事だと思っています。「こだまネット」の“つながり”も大切に、皆様といつまでも繋がっていたいと思っています。

好奇心が旺盛で、趣味が多く（旅・水彩画・囲碁・潜水・熱帯魚・観戦・鑑賞・読書）やることが一杯あっていささか焦っていますが、「アラ古希」の私は、“体力”“知力”の衰えを痛感しつつも、“気力”で頑張っています。これからもよろしくお願い致します。（2009.8.1）

徒然

瀧澤光治

八月に入り大学から第四コース発表会のポスターが届いた。あれからもう１年経ってしまうと思うと季節の移り行きの速さを感じずにはいられない。8/3日のNBS月曜スペシャル「大自然が友達ー夏の志賀高原ー」では高山植物園のコーナーで井田先生が信大植物園の中を案内されていた。去年の実習での「勾玉の丘」行きを思い出す。丘の上の湿地の水芭蕉やピンク色のシャクナゲなど。あの高橋、島野、井田先生の講義以来、登山する時にシラビソ林を観察するようになったなあ。シダの区別はつかないけれど林床も気にしてみるようになったなあ。マイスターになって１年過ぎてしまったが、それらしい活動は今のところできていない。特定の研究対象を継続的に見続けているわけでもない。我ながら成長が無いなと思いつつ、それまではあまり見向きもしなかった高山植物などを見ながら山に登っているので、気にしている分少しは自然にやさしい山登りが出来ているかなとも思う。諏訪シンポジウムでの霧ヶ峰関連団体の皆さんの活動紹介や大学生のボランティア活動などを聞くにつけアクションを起こさなければと痛感する。

山岳トイレ問題も継続して追いかけて行きたいが、この一年はほとんど活動できなかった。夏山は最新型トイレでとりあえず良いとしても冬山の排泄物はどうするのか？など課題はまだ多いなあ。今年の２月の黒戸尾根から甲斐駒ケ岳への登山では使用済みペーパーはすべて持ち帰ったけれど、結局汚物そのものは持ち帰れなかった。段ボールの携帯トイレは濡れに弱く雪の中では使えなかった。

最近、西川マイスターのオカリナに触発されてアンデスの楽器「ケーナ」を練習しはじめた。竹製で軽くメンテナンスが容易で持ち運びしやすく、山の上に持って行くのに丁度よいなと思って始めたが、これがなかなか難しい。吹き方も奏法も尺八のようなもので思ったような音色にならない。せめて、来年までには「コンドルが飛んでゆく」を吹けるようになりたいなあ。（2009.8.3）

マイスターになって

塩原文恵

マイスターになって、自然環境への見方も変わりましたが、父への見方が変わるきっかけにもなりました。家では何もしない父でついつい冷たく接してしまいますが、父と同世代の方々の知識の豊富さや、色々考え行動している姿を知り、うちの父も実は色々考えているのかな？どんなことを考えているのかな？と今更ですが興味をもつようになりました。これは私にとって大きな変化です。みなさんのおかげです。ありがとうございました。

マイスターとして私に何ができるのかまだ模索している状態で情けないですが、今の自分にできる小さなことを積み重ねていければと思います。

（2009.8.4）

近況報告

待井正和

日々の生活に埋没し、仲間の皆さんとお会いできる事が少なく忸怩たるものを感じております。だけれども、マイスターとしての気概を胸に、いまは「遺跡発掘作業」に、のめり込んでいるところです。考古学が扱う遺跡は、過去の人類の自然への働きかけがどのようなものであったかを私たちに教えてくれるので、自然と目が輝いてきます。現在の発掘現場は松本市四賀地区の殿村遺跡です。当初、会田統合小学校建設にもとずく縄文・弥生の緊急発掘であり、記録保存をして埋め戻し、4 月からは建設の槌音が響くところでした。しかし、15 世紀（応仁の乱の頃か）の居館跡と見られる石垣が発見され（東日本最古級）、現地への建設中止、遺跡の保存がつい昨日決定されたところです。

発掘遺物や遺構から、当時この地域を支配していた有力豪族、会田氏の生活ぶりや築城に伴う領民たちの苦労などが想像されます。ちなみに下図中央の大きな石は 800*2000*400 の形状で権力を誇示する為の「力石」と呼ばれています。近くの虚空蔵山の自然石（輝石安山岩）を使って石積みされています。

去年の発掘開始と同時に石垣が先ず発見されたので、四賀地区は「建設」か「保存」かで長い間揉めておりました。しかしその後、私たち（"堀り手さん"と呼ばれている）が掘り出した土師器、須恵器、天目茶碗、青磁、宋銭、硯、茶臼、茶壷、箸、内耳鍋、下駄、灯明皿などが整理・分類・復元され展示されました。また数回の現地説明会も実施され、小中学生、地域住民、建設業者、議員などなど多くの方がその実際を見に来ました。すこうするうちに、『会田という地域の歴史の流れが、風土とともに復元不可能なまでに断ち切られてしまうのは叶わん』という意見が大勢を占めるようになったのです。

どのような現地保存の形態をとるのかは、まだはっきりしていません。もしかすると「動態保存型」になるかもしれません。遺構の立体保存を行って歴史公園とし、体験学習その他の活動の場として多角的に活用し、地域の活性化をはかるものです。

発掘は本当に面白いものです。「ただ掘るだけなら掘らんでいい！」とよく先輩に言われます。マイスターとしても、この仕事をとおして地域のかたがたとドロクサク付き合っていこうと思っている今日この頃です。（2009.8.5）

この1年の感想

宮澤正義

マイスター講座終了後、日々の暮らしに流されるま一年が過ぎてしまいました。この間、南信濃の勉強会、信州新町の化石観察会、諏訪市で開催されたシンポジウム、大洞さんが企画された講演会に参加、あとは、第三コース基幹実習 C(気象・水質調査法)のお手伝いに諏訪へ行きました。

いずれも準備していただいた企画に、当日、顔を出すくらいの事しかできず申し訳なく思っています。

あれから1年、相変わらず片道13kmの自転車通勤は継続中です。日々、自然の変化と季節の移り変わりを肌に感じての走行です。自転車通勤自然環境診断マイスターとしては、「毎日渡る千曲川に発生する川霧と気象のかかわり」、「毎日目にする飯縄山にかかる雲と気象のかかわり」など、通勤途中には、気になる自然現象がいくつかあります。

とりあえず、小布施橋そばの下水処理施設「クリーンピア千曲」や消防署には時間ごとの気象観測データがあることは確認してあります。また、日本気象学会の「天気」には小布施町におけるヒートアイランド強度に関する研究が報告されています。

このような地域の観測データやAMEDASデータ、さらには地域の先行研究を参考にしての地域調査が今後の抱負です。スペシャリストではなく、自分が暮らす町の地形・地質、植物生態、気象・水質、湖沼、動物生態、史跡・遺跡などを、総合的に把握できるジェネラリストを目指せたら、と思います。

この一年、中心となって活動された竹脇さん、宮下さん、「こだまネット」編集委員長の池田さん、本当にご苦労様でした。そしてありがとうございました。

現在、自然環境に目が向きにくい状況にありますが、これからもよろしくお願いします。(2009.8.5)

こだまネット1周年にあたり

竹脇　聡

月並みな言葉ですけれど、この1年は本当にあっという間に過ぎ去ったというのが実感ですが、充実していたというのともちょっと違う、ただ、自分を試すべく、幅広い分野のことについて、自らに高いハードルを課して取り組んできたという自負だけは持っているところです。その一方で、あのレポートと格闘して苦労していた日々は遠い昔のことのようにも思え、今は何とも不思議な気分です。

私は大学を卒業後、自らの理想と現実の生活との間で苦しみながら、何とか今を迎え、ふと気がつくと50歳を目前にし、これまでの、そして今後の人生について考える手掛かりを掴むべく、昨年マイスター講座を受講したところでした。

講座を受講しての最大の収穫は、多くの素晴らしい方々と出会えたこと。人生の大先輩から若く情熱溢れる方まで、私は常に、なんとか皆さんに遅れまいと頑張って参りました。

しかし皆さんもご存知のように、悪戦苦闘の結果、ようやく資格をいただきましたものの、さあこれから何をしていこうかというと、あれもやりたいこれもやりたいと散々欲張った挙句、今はまだ何も結果を残せていない、というのが現状です。

なんと言っても、公私共に、人生で一番充実しているはずの20代から40代までを、横道に逸れて不良をやっていたものですから、今さら更正しても手遅れかとも思いますが、残りの人生で少しでもそれを挽回できればと考えている今日この頃です。

今の私にとってマイスターは、誇りであり、拠り所です。今後もその肩書きを背負いながら、曲がりながらも自信を持って、自らの進むべき道を探していく所存です。

来年の今頃、2周年の集いの場では、皆様方の前で胸を張って、現状報告と将来の展望を語る。1周年にあたり、そんなハッタリをかまして、今日のところは御免なすって。(2009.8.5)

自然環境診断マイスターとなって

No23　中野國光

山仕事の行き帰り等で、身の回りの自然を思った時「自然環境診断マイスター」の重みがひしひしと圧し掛かる。一方で、今まで無かった目線で自然を眺めるセンサーを幾つも与えてくれたマイスターにしみじみと「よかったなあー」を感じる。こんな思いが錯綜しながらの私の1年が今、過ぎようとしている。なかでも自分の行動エリアが急激に広がったのは「水辺」への関心だ。三浦さんに勧められての「せせらぎサイエンス」研修会への参加（三浦さんのレポートにあったようにちょっと夢中）をはじめ地元塩尻の「子供チャレンジ・奈良井川探検隊」に参加等々。水棲生物の観察は投網一辺倒だった私の心変わり（母親いわく小学3年生の顔に戻った）だ。むろん、本来の業務である農林業においても、観察の目が折々で変わった気がするし、文献に触れる時間も増えた。私にとってそのよい例が、「ミズナラ」の発見である。以前は、「ナラの木」を伐っている。が、今は「ミズナラ」を伐っている。との言葉で周囲に発信している。つまり、一本のごくごく普通の木でも「深化」の思考が働くようになった。喜ばしい反面、これがこれから永遠に続く私の課題となった。探求・解明から納得に至るまでの壁が立ちはだかる人生に、私の生き様が変わった事になったのである。いまさらかもしれないが、この道をストレスを溜めることなく淡々と歩んで行きたいと思う。無論、マイスターの仲間や家族と乾杯しながらでの事ではあるが。（2009.8.7）　以上

一年生の環境診断マイスター

西川　朋子

一年の中で本当に多忙を極めるこの季節、我が家には土・日曜日が存在しない月が数ヶ月続き、毎年恒例のこと今年も同じです。そんな状況下で、昨年一念発起し環境診断マイスター受講に、持てる時間を駆使し無事修了出来たことが不思議でならないと、日々埋まっていく今年の日程表を眺めていると感慨深いものがあると同時に、どう乗り切ったのかよく思い出せません。

今考えてもなんともハードな日々だったことでしょう。毎日といっていいくらい「休講してもいいんだから・・」とささやく声に悩まされ続けたことと、捻出した時間の埋め合わせをするのに大変苦労したことです。ただ、そうして得たものは誰の為でなく「真に自身のためと」胸を張って言い切れることが、何よりの収穫となったことは事実です。

現在私は幾つかの仕事をしつつ生活をしていますが、ここ数年思うことは、一つ一つの取り組みを『深めていく・繋げていく・広めていく』ことを大切にし、そのために必要な事柄には続けて自身の努力をいとわない姿勢を保ちたいと切に考えています。その場限りの取り組みや勉強に終わるのではなく、もてる時間と機会を有効に活かしていくようにしています。

では「環境診断マイスター」はといいますと、いまでも研鑽の日々が続いています。「研鑽」は少し前向きな響きに語弊がありますが、前段の心構えを大切にしつつ何事にも取組んでいる状態です・・・が今一番心配なことは、いつまでたっても『自然環境診断マイスター』とはなんぞやがうまく説明できなさそうなことです。マイスターへの道のりは、依然として厳しいものです。（2009.8.9）

感想

奥原松男

信州大学自然環境診断マイスターの資格を頂いて1年がたちました。振り返ってみると、自分の人生の中で一番大きな経験をした時期だった思いが致します。私は、第一期の受講生で入ったのですが、首（頚椎）の損傷で歩くことも困難になり、信大の理学部での勉強が、信大の医学部への入院となってしまいました。手術も成功しリハビリで歩くことも出来るようになり、第二期生として受講できラッキーだったと思います。(個性豊な方々が多く会うのが楽しみです。)マイスターの資格を頂いて変わったことがあります。よく歩くようになりました。(観察的行動）歩く＝よく観察出来る　オマケ（70Kgあった体重が62Kg）

次に、知人から受けた2件の相談を紹介します。

1.菜園への鹿害をなんとかしてほしい。(５０坪ほどの家庭菜園）

松本市入山辺に知人が住んでいますが、5月に鹿だと思うのですが畑が荒らされて困っているから何とかならないかという相談をうけました。現場に行って観察してみると、鹿の糞、足跡があり野菜の苗が7割ほどたべられていました。防護ネットを張るなどの案を出しましたが予算、時間の都合つかない。簡単に追い払う方法は、無いのなんて尋ねられ実験的に髪の毛を蒔いてみたらという話題になり早速、実行することになりました。畑の北側からの進入ルートを塞ぐ。廃材を使って柵を作る。廃材には、カキシブと木酢を塗り髪の毛の入った袋を吊る。獣道に髪の毛を蒔く。その後、被害は出ていません。

2.大峰高原自然観察会

池田町広津の父兄から頼まれ親子12名で行ないました。大峰の露頭の見学（信大第一期、地質の実習の行われた場所でしたので説明は、簡単でしたが住民の皆さん方には感動されました。道路には、たんぽぽが咲いており、在来種と外来種が混在していました。ガクの部分が上を向いているか、まっすぐのが在来種と教えてあげると子供達が大喜びで探し、生坂村まで歩くはめになった。結果的に、生坂側の方が在来種が多く、たんぽぽの指標植物のひとつになっていることを説明出来た。（都会化の状況）田舎なのにたんぽぽの攻防が感じられた。(がんばれ日本)

観察会にて、生物の名ばかり知りたがるが、私自身、生物の名をよく知らないのでいっしょに調べようと答える。結果お互い調べること、知ることが出来る。基本的な生物種その場所にたくさんある普通の生物、環境指標的な生物、危険な生物、希少生物は大事にされるが、コレクターのターゲットにもなる。教えたり、学んだりガイドラインが難しいですね。これからも、楽しみながら取り組んでいきたいと思います。

こだまネット・この1年

池田正史

自然環境診断マイスターという魅力的？な名前に誘われて受講してしまいましたが、一年過ぎた現在でも、本当に診断が出来るのだろうかと、自問自答しております。総合的な診断は、ある環境をアセスメント以上に熟知しないとできないのかもしれません。まあ、これは、私のライフワークとして、気長にやるつもりです。さて、一周年記念として、マイスター各位に感想文をお願いしたところ、2,3 の方を除いて、大部分の方が原稿を寄せてくれました。実のところ、半数くらい集まれば上々と思っていましたので、第二コースの纏まりの良さに嬉しい驚きでした。(編集部のシツコイお願いもありましたが。)これも、宮下会長、竹脇副会長、中野会計幹事長　三役の強力なリーダーシップ、大洞・三浦両マイスターのハイレベルで、エネルギッシュな活動に引っ張られてのことと思います。女性マイスターの活躍に、ヤロウドモは喝を入れられています。また、最初にメーリングリストを作成してくれた橋住マイスターの功績も大なるものがあります。西澤マイスターデザインのブルゾンも第二コースのまとまりに一役買っています。8月9日の総会で、三役の継続も決まり、第二コースも新たなスタートを切ることになり、益々パワーアップして行くようです。楽しみです。

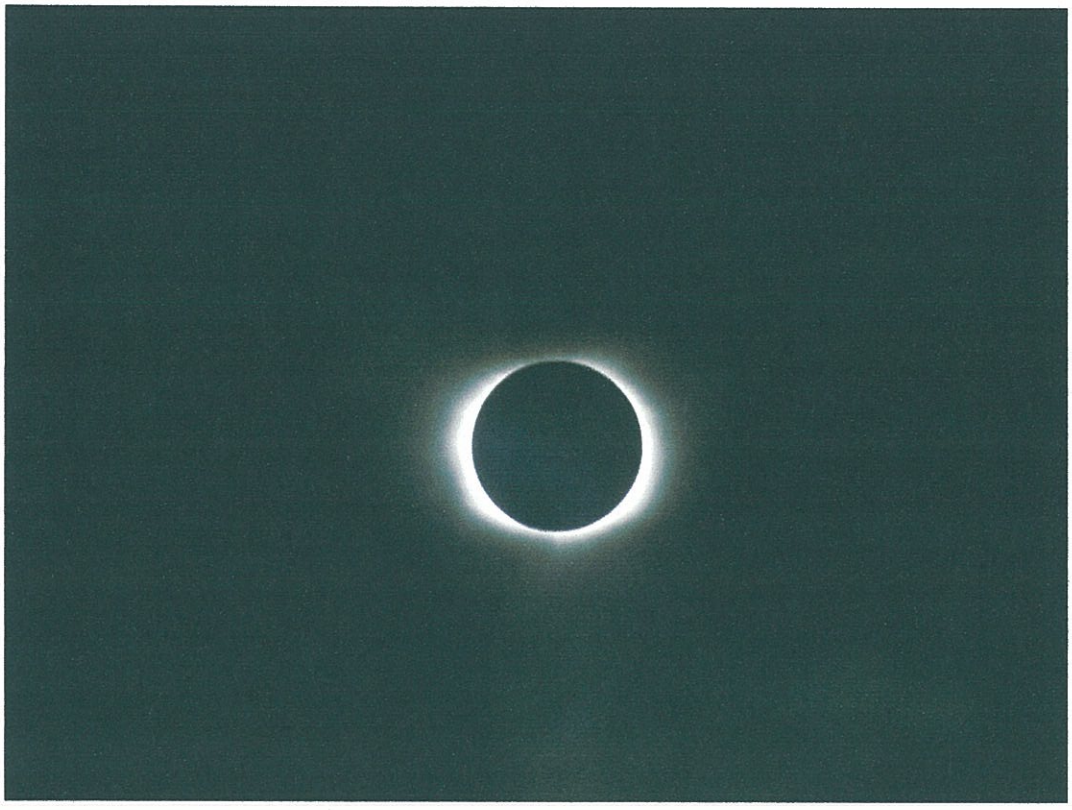
● お知らせコーナー

1. 2009年8月22日(土)：第4コース　口頭発表会　13:00～16:10 信州大学理学部C棟2Fにて

2. 大洞マイスターからのお知らせ（詳細は、8月13日着信メール参照）
2009年 8月23･24日:{信州環境フエアー2009}　長野市ビックハット にて

● コーヒー・ブレイク

皆既日食:2009年7月22日 9:27(現地時間)
橋住マイスター・中国・武漢にて撮影・提供



◆ 本の紹介

・「リンゴが教えてくれたこと」：木村秋則；日本経済新聞社；2009.5発行；¥850
9年がかりで無肥料、無農薬でリンゴ造りに成功！自然から何を学んだか

・「環境異変」：信濃毎日新聞社；2009.7;¥1000・
全国の環境異変を収録

・「保全生物学」：アンドリュウ・S・プリン；丸善（株）；2005.4;¥3800
生物多様性のための科学と実践の書

活動報告

● 2009年8月8～9日：開田サミット・せせらぎサイエンス開催・竹脇邸にて宿泊

・以上4枚とも三浦マイスター撮影・提供

● 2009年8月9日：こだまネット総会・塩尻市山本公民館にて：12名出席

・宮下会長　竹脇副会長　中野会計幹事長留任決定

・機関紙こだまネット不定期便発行決定

● 編集後記

この機関紙もお約束の一年間の発行を今回で無事果たすことができました。これも、各マイスターの活発な活動があったればこそと、感謝でいっぱいです。今後は、装いを新たに、不定期便で年2～3回のペースで発行することで、総会の承認を頂いたところです。さらなる、各マイスターのご協力をお願いする次第です。

言うまでもありませんが、こだまネット（会・機関紙共）は、先生方の貴重なご意見がバックボーンとなっております。今後も変わらぬご意見、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

発行所：北佐久郡御代田町御代田2383-10　TEL:0267-32-9350　池田正史